



売った学生服をごみにしたくない!

村田堂は、明治 22 年より学生服の製造販売を行い、今年で 130 年を迎えました。当初は、自社工場で製造をしておりましたが、時代とともに業態を変化させ、現在では、学生服の企画、販売の業務を行っています。

私が家業を継いだのは、平成 15 年 6 月、その頃京都は「京都議定書」の都市として地球温暖化防止活動に力が入っていた時期でした。大学卒業後、大手繊維メーカーに勤めていたこともあり、繊維の知識を学生服販売に生かしながら、社会に貢献できる企業になろう! と会社経営を学ぶとともに繊維リサイクル技術の勉強、そして京エコロジーセンターや京のアジェンダ 21 フォーラムにて地球温暖化防止につなげる活動も行っていました。

「繊維リサイクル」の現状については、日本繊維機械学会繊維リサイクル技術研究会に入会し、当時京都工芸繊維大学の教授木村照夫先生のもと、日本の事例を学びましたが、全国で年間約 100 万トン発生している衣料のごみの有効活用率は、まだ 20%程度といわれています。有効活用率が低い原因のひとつは、天然繊維、合成繊維等の素材が混ざっていて、リサイクルしにくいこと、そしてファストファッションの台頭で安価でファッション性の高い服が多く消費されていることです。

繊維リサイクル技術研究会では、一昨年度より国内の繊維メーカーを中心とした WG が設置され、京都市の学生服に特化したリサイクルシステムの構築に向けて動き始めました。私もメンバーの一員として、お手伝いしています。一昨年度は、学生服を回収してリサイクル(綿状に戻して、フェルトシートを作成)してペンケースを作成しました。昨年度は、学生服をリサイクルして、樹脂に加工その後コインケース、キーホルダー、マグネットバーを作成。また、紙に加工してファイルとうちわを作成しました。これらのリサイクルについても、社会的なシステムにしてくのはまだ時間がかかりますが、「売った学生服をごみにしたくない!」という思いを持ち続け今後も活動を進めていきます。



学生服をリサイクルして作ったコインケース



学生服をリサイクルして作ったペンケース

REPAIR FACTORY

(有)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel : 0774-66-6254

(有)村田堂 長屋 博久